

①

カタバミ

酢漿草 かたばみ カタバミ科

花ことばは「輝く心」の儉約型雑草

空母の上からつぎつぎと戦闘機が空中に放たれていく。滑走距離をほとんど必要とせず、水蒸気の圧力で戦闘機を飛ばす最新システムは「カタパルト」と呼ばれている。

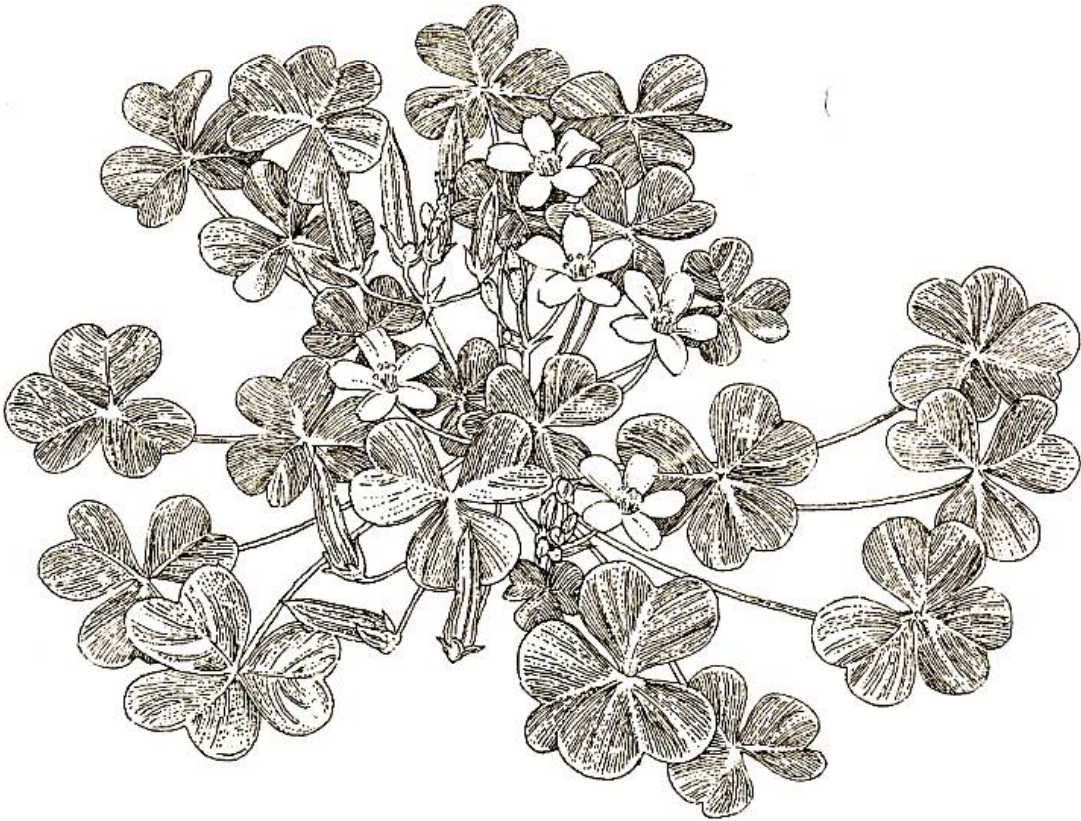
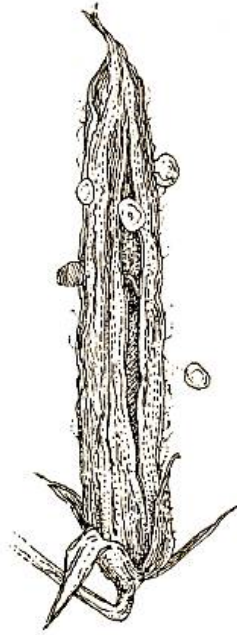
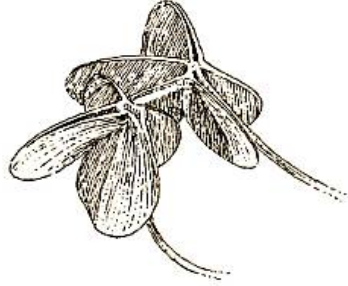
「カタバミ」という雑草の名は「カタパルト」に何となく似ている。しかし、似ているのは名前だけではない。ロケットのような形をしたカタバミの実のなかには、小さな種子がたくさん装備されていて、なんとその一つ一つに発射装置が取り付けられているのだ。発射装置は白い袋のように種子を包んでいる。白い袋の外側の皮は大きくならないが、袋の内側の皮は細胞分裂を繰り返しながら種子の生長にあわせて伸びていく。それでも外側の皮は伸びないので、やがて、内側の皮は細胞が押しつぶされるように圧縮されてしまうのだ。限界まで圧縮された細胞は、内側からはじけて、ついに外側の皮をやぶり、反転してしまう。この圧力で種子はものすごい勢いではじき飛ばされるのである。この雑草を抜き去ろうと傍若無人な人間が不用意に触れると、その振動で発射装置が作動して、種子がバチバチと音を立てながら飛び散っていく。さらに発射装置の袋のな

かに充滿していた粘着物質が種子と一緒に飛び散って、人の靴や衣服に付着するようになっていいる。カタバミのシステムには最新型の兵器も顔負けというところである。

もちろん、カタバミの名の由来はカタパルトではない。夕方になるとカタバミは葉を閉じてしまう。このときの姿が葉の片側が食べられて欠けたように見えるので「片喰み」と呼ばれているのだ。カタバミが葉を閉じるのは、夜間の放射冷却によって熱が逃げるのを防ぐためであると考えられている。熱エネルギーを無駄にしないように考えているのだ。さらにカタバミは、葉ばかりでなく花も閉じる。建物の陰になったときや、曇りや雨の日には、花は開かない。光が当たらないときには虫の訪れる可能性が低いので、花を閉じて花粉のロスを防いでいるのである。

カタバミは決して葉を広げっぱなしにしたり、花を開きっぱなしにしたりはしない。つねに状況を判断しながら、こまめにエネルギーや資源の節約に励んでいるのである。テレビをつけっぱなしにしてうたた寝してしまう人や、お風呂のお湯を出しっぱなしにしてあふれさせてしまう人には耳が痛い話だろう。

省エネに励む儉約家のカタバミは「黄金草」こがねくさの別名を持っている。ただし、「黄金虫は金持ちだ」と歌われたコガネムシのように金持ちだからそう呼ばれているわけではない。

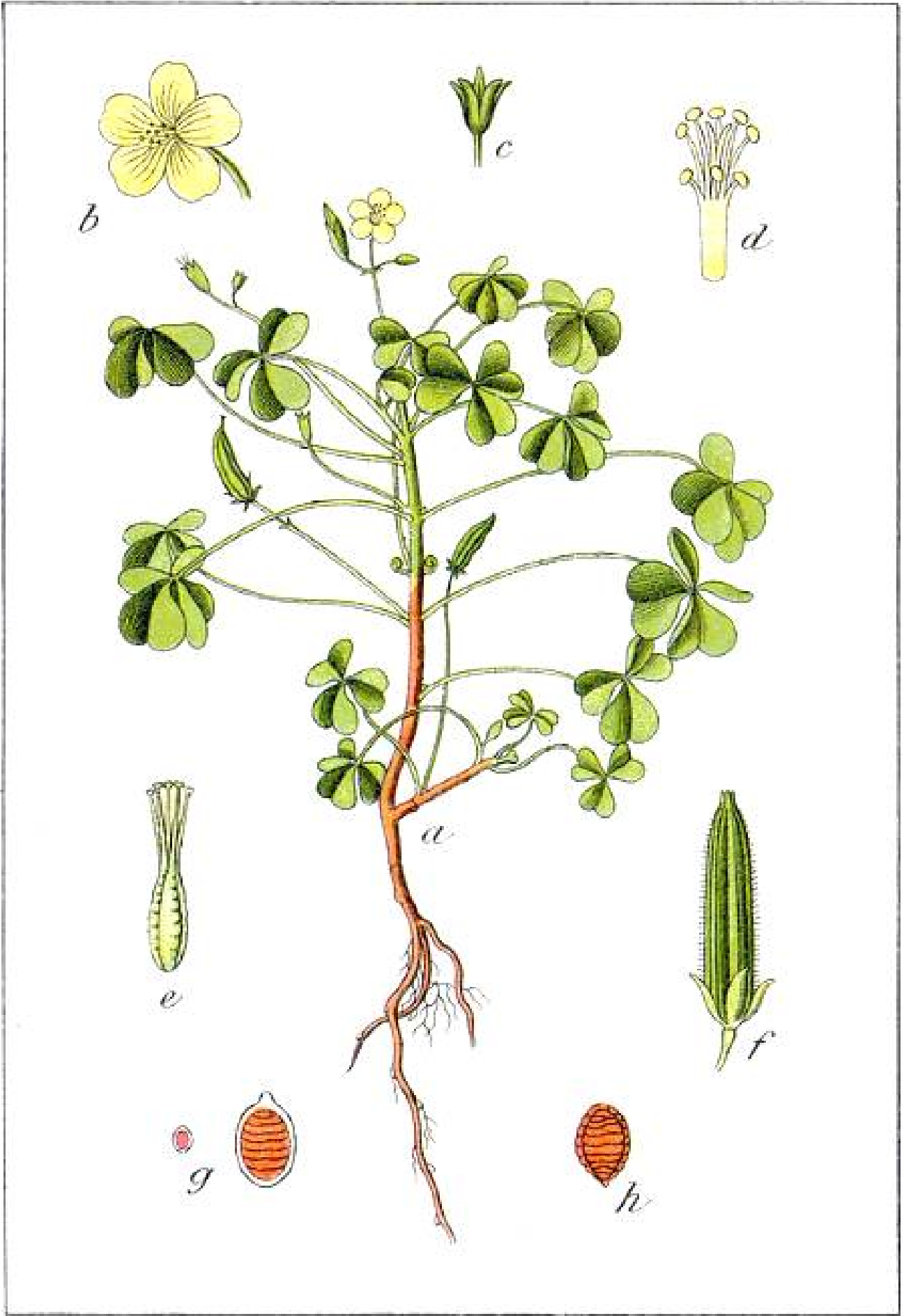


カタバミの葉は虫に食べられないようにシュウ酸を大量に含んでいる。そのため、この葉で金属を磨くと汚れが落ちてピカピカになるのだ。試しに十円玉を磨いてみると魔法のようにピカピカになる。これが「黄金草」と呼ばれるゆえんである。もちろん、十円玉をいくら磨いても金貨になることはないから、お金持ちにはなれない。

カタバミで鏡を磨くと、想う人の顔が鏡のなかにあらわれるというロマンティックな伝説もある。このほうが十円玉をピカピカにするよりは、もう少し幸せになれそうである。

美しく均整のとれた葉を持つカタバミを、昔の女性はチョウと同じように愛でたという。たしかにカタバミの葉をよく見ると、かわいいハート型をしている。一方では猛者ぞろいの戦国武将のあいだでカタバミは家紋として好んで使われた。逆境のなかで種子をまき散らす強さから、子孫繁栄のシンボルとなったのである。こんな小さな雑草に美しさや強さを見出した昔の人の自然へのまなざしには脱帽するしかない。

カタバミの花ことばは「輝く心」である。魔法で金持ちになることを考えるよりも、私たちもせつせと心を磨こうではないか。



特徴 [編集]

葉は、ハート型の3枚がとがった先端を寄せあわせた形。三出複葉だが、頂小葉と側小葉の区別はつきづらい。地下に球根を持ち、さらにその下に大根の様な根を下ろす。葉は球根の先端から束に出る。この他、匍匐茎をよく伸ばし、地表に広がる。このため、繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草である。

春から秋にかけて黄色の花を咲かせる。花びらは5弁。

果実は円柱状で先がとがり、真っ直ぐに上を向いてつく。成熟時には動物などが触れると、自ら赤い種子を勢いよく弾き出す。最大1m程度までの周囲に飛ばすことができることも繁殖に有利となっている。

葉や茎は、シュウ酸水素ナトリウムなどの水溶性シュウ酸塩を含んでいるため、咬むと酸っぱい。シュウ酸は英語で oxalic acid というが、カタバミ属 (*Oxalis*) の葉から単離されたことに由来する。また、葉にはクエン酸、酒石酸も含まれる。カタバミ属の植物をヒツジが食べると腎臓障害を起こすとの報告がある。

ヤマトシジミの幼虫が食草とする。



葉



花



果実

	名前	カタバミ
	科名	カタバミ科
	学名	<i>Oxalis corniculata</i> L.
	花期	夏～秋

庭先などにもっともふうつに見られます。夜は葉をたたんでいて、まるでねむっているようです。

葉がクローバ(シロツメクサ)に似ていますが、花はまったく違います。

実はロケットのような形をしていて、じゅくすと種をはじきとばします。

葉が赤紫色をおびるものをアカカタバミとよびます。





アカカタバミ

カタバミ *Oxalis corniculata* (カタバミ科 カタバミ属)

カタバミは熱帯から温帯に広く分布する多年生草本。庭や畑の雑草としてお馴染みであり、やっかいな植物の1つである。地下部には地上の茎の割には太い根があり、草を刈りしてもこの根が残っていてしつこく再生してくる。茎は地上を這い、所々から根を出して広がっていく。葉は柔らかく、シュウ酸を含んでおり、酸っぱい。夜は葉を閉じる、日周運動を行う。葉の色は緑色のものが多いが、緑紫色のものから赤紫色のものまである。緑紫色のものをウスアカカタバミ、赤紫色のものをアカカタバミと区別したこともある。

花は春から秋まで次々と咲かせ、種子を付けて繁殖する。果実ははじけ、種子を自力で散布する。近寄ってみると結構かわいい花であるが、草取り時の苦勞を知っている人には憎らしい花であろう。

和名は傍食だそうで、葉の一部が欠けているためだそうで、部分的に食べられたという意味なのだろうか。ハートマークが3つ集まったような葉の形であり、毛虫に食べられてしまったというイメージではない。幾何学的な要素を持った葉の形は、家紋によく使われている。



カタバミのなかま



[アカカタバミ](#)



[カタバミ](#)



[ムラサキカタバミ](#)



草種：	多年生広葉雑草カタバミ科	生育期間：	通年
分布：	北海道、本州、四国、九州、沖縄	繁殖：	種子およびほふく茎
草丈：	10～30cm		

生態

家の周辺や庭、道ばたなどにひろく生育するごく普通の雑草です。繁殖力が強く、早春から夏にかけて盛んに生育します。葉は長い柄があり3枚の小葉からなり、小葉は心臟形で細かい毛があります。葉は昼間開いていますが、夜間は閉じ、ネムノキと同じく睡眠運動をします。5～10月にかけて葉のわきから長い茎をのび、数個の黄色い花をつけます。果実は熟すと種子を弾き飛ばします。

豆知識

繁殖力の強さから葉の形が武家の家紋にも使われています。



カタバミ<酢漿草> カタバミ科 カタバミ属 *Oxalis corniculata*

路傍に普通に見られる多年草。高さ10cm程度。春～秋にかけて花を咲かせる。葉や茎にしゅう酸を含むので酸味がある。

分布 北海道～沖縄

花期 5-9月

撮影 横浜市 97. 5. 1、 01. 10. 4

かたばみ No.049



名 前 カタバミ
片喰・酸漿

別 名 スイモノグサ

科 名 カタバミ科

学 名 *Oxalis corniculata*

花 期 5～9月

草 丈 5-15cm

生育地 花壇、庭先、道端

仲 間 アカカタバミ、ムラサキカタバミ

その他 食用可・薬用効能有・毒性有

撮影地 豊橋市今橋町

※画像はクリックで拡大します。

メ モ

どこにでも普通に見られる野草です。3枚のハート形の葉が特徴です。この葉は就眠運動と言う夜は閉じる運動をします。その閉じた葉の一片が欠けて見えるので、ついた名前であるとか、葉の片側が欠けて見えるので、片側が食べられた（はまれた）草、カタバミであるなどの説があります。カタバミの仲間は酸を含むので、かむとすっぱい味がします。



写真77, ムラサキカタバミ
4月, 中央区



写真78, ムラサキカタバミ
4月, 中央区

■ムラサキカタバミ

庭先や植え込みのふち、石垣の間など、よく日の当たるところに見かける、うすい紅色の花は、街の中ではごく普通になっています。もとは江戸時代に観賞用として持ちこまれた草花で、その原産地は南アメリカです。花は美しくても種はできませんので、地中のイモでなかまをふやします。これは無性繁殖(むせいはんしょく)というものです。

写真77は午前8時で、天気は快晴でした。写真78はその同じ日の午後6時に写したもので、すでに花は閉じていました。なお、この日は4月28日で、日の入りの時刻は午後6時40分と発表されていたから、実際に閉じたのは日の入りよりも1時間以上も前ということになります。



写真79, イモカタバミ
5月, 灘区



写真80, オオキバナカタバミ
4月, 灘区

■イモカタバミ

さきのムラサキカタバミより色が濃く、花の中心部がさらに濃くなっています。花の大きさは1.5cmほどで、ムラサキカタバミより少し小さく、原産地も同じ園芸植物ですが、日本への移入はずっとおそく、やはり野生化して、人家近くの草にまぎれて人目をひきます。栽培(人の手入れ)からのがれ、自然状態で生き続けることを野生化(やせいか)といいます。

■オオキバナカタバミ

カタバミのなかまの葉は、ハート型の小葉が3枚集まって一組になっていますが、紫がかった褐色の小さな点々(斑点)をつけているので、花がなくてもすぐそれと分かります。

こちらは遠く南アフリカのケープタウンあたりの原産で、園芸用として移入されたのですが、野生化しているのが確認されてからまだ40年ほどにしかならない新しい帰化植物です。花はカタバミの3倍ほども大きく、歩道近くの草に混じって生えているのを見ると、おもわず足が止まります。

カタバミのなかまを比べる

	地下部	地上をほう茎	葉のつき方	葉の小斑	花の色	花の大きさ	分布／原産地
カタバミ	主根	ある	互生	ない	黄	0.8cm	暖帯～熱帯
オッタチ...	根茎	ある	2本ずつ少しずれて	ない	黄	1.0cm	北米
ムラサキ...	鱗茎	ない	根生葉	ない	淡紅	2.0cm	南米
イモ...	塊茎	ない	根生葉	ない	濃紅	1.5cm	南米
オオキバナ...	鱗茎	ない	根生葉	ある	濃黄	3.0cm	ケープタウン

<用語説明>

主根(しゅこん):種から伸びてきた太くて長い根. それから出るのが側根(そっこん)

根茎(こんけい):地下にある茎. 横に長く伸び, 節から根を下ろし, 地上に茎を立てる.

鱗茎(りんけい):根の近くにあり, 茎のぐっと縮まったもの. 栄養分をたくわえなかまをふやす手段の一つ.

塊茎(かいけい):地下茎の先端に栄養分をたくわえ, かたまり状になった. なかまをふやす.

根生葉(こんせいよう):根際から出ている葉. 根から葉が出ているのではない. うんと縮まった茎から出ている.

性質

駆除が難しい雑草:植えるべからず

地下に球根があり、その球根から、太い根を出し、また匍匐でも増え、種が出来ると、その種が勢いよく飛びだして繁殖するという、ほとんど出来る限りの繁殖方法で増えるため、一旦生えてくると駆除が難しい雑草。



カタバミとクローバー

クローバーと似ています。ハート型の三枚の葉っぱが茂ります。クローバーもカタバミも匍匐して増えますから、パッと見では花が咲くまでわかりません。まあ、クローバーを植えた覚えがないならカタバミですね。

カタバミもクローバー同様に四葉や五つ葉をつけますが、発生率はクローバーよりも低いとされています。最近ではカタバミの仲間のうち、四葉ばかりをつけるものが「四葉のクローバー」として流通しています。



カタバミ



クローバー



クローバー(シロツメクサ)

ムラサキカタバミ *Oxalis debilis* Kunth. var. *corymbosa* (DC.) Lourteig

= *Oxalis corymbosa* DC.

= *Oxalis debilis* Kunth subsp. *corymbosa* (DC.) Lourteig

- *Oxalis martiana* Zucc.

南アメリカ原産の多年草、本州、四国、九州の暖温帯に帰化している。

広島県： 島嶼部から沿岸部に広く生育し、6~7月に咲く。

広島県植物誌 p.229；東城町植物誌 p.149；呉市目録 p.110；広島外来 p.11；山野草春 p.158；

[広島県の植物図鑑へ](#)



ムラサキカタバミの葯は白色

アカカタバミ *Oxalis corniculata* L. f. *rubrifolia* (Makino) H.Hara
カタバミの一品種、全体小型で、葉が暗紫色を帯び、花色が橙黄色になる。
広島県： 島嶼部・沿岸地に生育する。
広島県植物誌 p.229；呉市目録 p.110； [広島県の植物図鑑へ](#)



アカカタバミの型

カタバミ *Oxalis corniculata* L.

北海道、本州、四国、九州、南西諸島および世界の暖温帯から熱帯に広く分布する多年草。

広島県： 島嶼部から高原面まで、各地の人家付近、路傍の草地に生育し、主に5～9月頃に咲く。

広島県植物誌 p.229；東城町植物誌 p.149；呉市植物誌 p.129；呉市目録 p.110； [広島県の植物図鑑へ](#)



カタバミ

ハナカタバミ *Oxalis bowieana* Lodd.

- *Oxalis bowiei* Herb. ex Lindl.

南アフリカ原産の多年草、関東地方以西の本州、四国、九州の暖温帯に帰化している。

広島県： 島嶼部、沿岸部に植栽され、野生化、7～10月に咲く

広島県植物誌 p.229；呉市目録 p.110；広島外来 p.11；山野草春 p.159； [広島県の植物図鑑へ](#)



ハナカタバミ

イモカタバミ *Oxalis articulata* Savigny

南アメリカ原産の多年草、本州、四国、九州の暖温帯に帰化している。

広島県：沿岸部から内陸の人家付近に植栽され、野生化、4～10月に咲く。

広島県植物誌 p.229；東城町植物誌 p.149；呉市植物誌 p.129；呉市目録 p.110；広島外来 p.11；

[広島県の植物図鑑へ](#)



イモカタバミ、写真の葉はシロツメクサばかり

オッタチカタバミ *Oxalis dillenii* Jacq.

- *Oxalis stricta* auct. non L. (本来の*Oxalis stricta* L.もオッタチカタバミとする意見があり、その場合はこちらの名が正名となる。)

北アメリカ原産の多年草、本州、四国、九州の暖温帯に帰化している。

広島県： 島嶼部、沿岸部の人家付近に生育し、4～11月に咲く。

広島県植物誌 p.230；呉市植物誌 p.130；呉市目録 p.110；広島外来 p.11； [広島県の植物図鑑へ](#)



オッタチカタバミの茎は太く、直立する

ミヤマカタバミ *Oxalis griffithii* Edgew. & Hook.f.

= *Oxalis acetosella* L. subsp. *griffithii* (Edgew. & Hook.f.) H.Hara

本州、四国、九州およびヒマラヤ以東の大陸に分布する多年草。

広島県：高原面から山地の湿った林床に生育し、3~4月に咲く。

広島県植物誌 p.230；野の草 t.18；広島野草1 p.108；野の花 p.75；東城町植物誌 p.149；芸北然 p.45；山野草春 p.157； [広島県の植物図鑑へ](#)

var. *griffithii* 関東・中部地方に分布する va. *kantoensis* (Terao) T.Shimizu カントウミヤマカタバミ と区別するときには、var. *griffithii*とする。



ミヤマカタバミ

オオキバナカタバミ、キイロハナカタバミ *Oxalis pes-caprae* L.

南アフリカ原産の多年草、関東地方以西の本州、四国、九州の暖温帯に稀に帰化している。

広島県： 島嶼部の人家付近に生生育し、3～5月に咲く。

広島県植物誌 p.230；広島外来 p.11；呉市植物誌 p.130；呉市目録 p.110；植物誌補遺 p.41；[広島県の植物図鑑へ](#)



オオキバナカタバミ

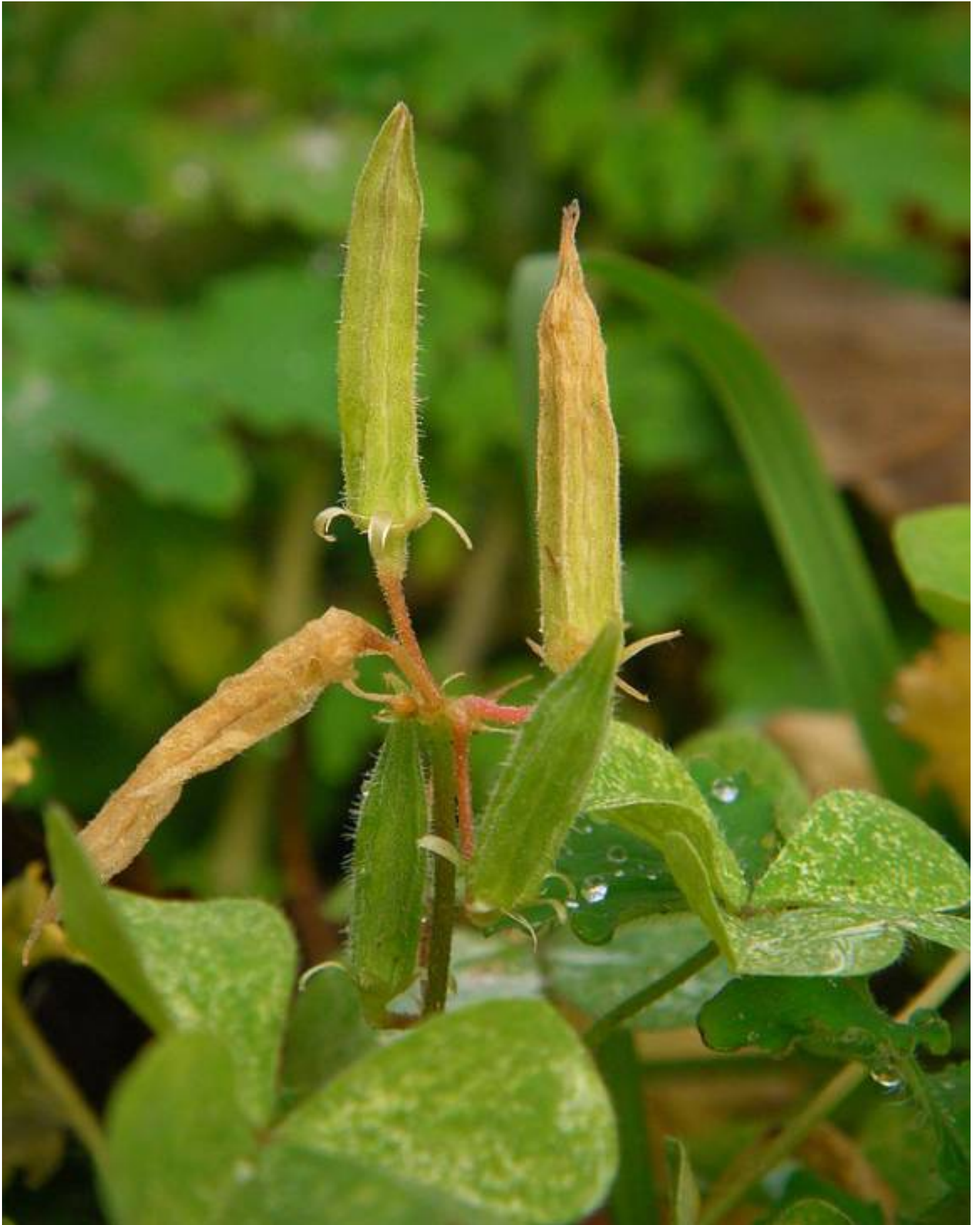






















カタバミいろいろ



ムラサキカタバミ

オオイヌフグリやホトケノザの後に散歩道の土手や田の畦を彩るのはカタバミで、日本古来のカタバミや近年帰化した外来種等、種々のカタバミが黄色や赤の花畑を作る。



海に近い道路のへりを埋め尽くしている

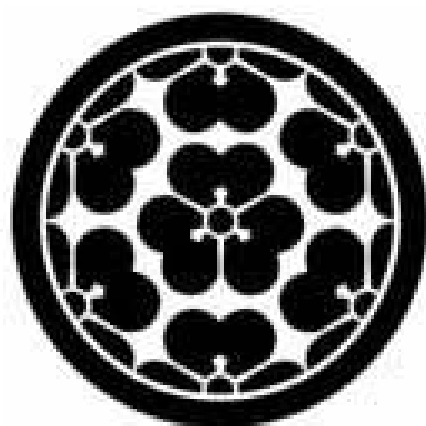


種皮の外側は半透明で弾力がある皮になる。果実にできた裂け目から種子が突き出すと、半透明の皮が反転して種皮の内側に包まれた中身を弾き飛ばす。



長曾我部氏

七つ酢漿草/帆掛船
(泰氏流)









◆暑くなってきたら、明るい日陰で見つかるよ。
(ここは、れみこ家の裏庭)











